

第13回高岡市歴史まちづくり協議会 議事録

開催概要

■日 時 令和2年7月20日（月）15:00～16:30

■場 所 ウイングウイング高岡 4階ホール

■出席者 協議会委員 12名（以下、委員名簿参照。）

事務局 17名（高岡市、高岡市教育委員会）

（なお、事務局として都市計画課及び生涯学習・文化財課のほか、事業担当課として都市経営課、文化創造課、産業企画課、商業雇用課、観光交流課、共創まちづくり課、花と緑の課、地域振興課、福岡まちづくり推進室、下水道工務課が出席した。）

委員等名簿

	氏名	役職等	出欠等	備考
1	上野 幸夫	職藝学院教授	本人出席	
2	古池 嘉和	名古屋学院大学教授	本人出席	
3	萩野 紀一郎	富山大学芸術文化学部准教授	本人出席	
4	長谷川 孝徳	北陸大学教授	本人出席	
5	蜂谷 俊雄	金沢工業大学教授	本人出席	会長
6	林 暁	富山大学芸術文化学部教授	本人出席	
7	阿部 雅文	富山県土木部都市計画課長	山懸代理	
8	宮田 義人	富山県農林水産部農村振興課長	柴田代理	
9	吉田 学	富山県教育委員会生涯学習・文化財室長	越前代理	
10	福田 直之	高岡市産業振興部長	本人出席	
11	杉森 芳昭	高岡市教育委員会事務局教育次長	本人出席	
12	堀 英人	高岡市都市創造部長	本人出席	

（敬称略・順不同）

会議次第

- （1） 歴史まちづくり計画（第2期）の策定について
- （2） 歴史まちづくり計画の最終評価（素案）について
- （3） 歴史まちづくり計画（第2期）（素案）の策定について
- （4） 今後の予定

審議結果

審議案件（1）、（2）の内容について、了承された。

審議案件（3）の内容については、質疑を経て、一部精査事項として保留の上で了承された。

質疑

(3) 歴史まちづくり計画（第2期）（素案）の策定について

委員：継承は、困難な事態に直面しており、本計画でもっと踏み込んで位置付けるべきと考える。本計画で位置付けられない場合は、上位計画で位置付けるべきであるとする。

委員：位置付ける場合、どのようにして具体的に取り組んでいくのかを考えることが必要である。本計画でどの程度議論されるのかを示されたい。

事務局：本計画の上位計画は総合計画であり、相互にフィードバックしながら策定の検討をしている。今後10年間の計画について、人口減少や少子高齢化の中で、総合計画の見直しなどにおいて、人の力にスポットを当てるような計画を考えている。ご指摘にあった伝統技術や祭礼行事の継承の具体的な内容は難しい課題である。本計画においては、具体の事業を進めていく中で、ハード中心に行ってきた。これまでの事業展開から、ソフトの取り組みを重点的に実施していきたいと考えている。

委員：本計画以外の計画で議論する内容についても言及されたい。

事務局：上位計画である総合計画において、伝統産業の継承についても議論していただく予定である。総合計画は、本市の最上位計画であり、本計画をはじめ各種計画の基本となるなど行政運営の総合的な指針となるものである。したがって、両計画を並行して検討し、市として整合性のとれた内容としていきたい。

事務局：また、今年度産業振興ビジョンを策定することとしており、伝統産業の事業承継という点でも現在検討中である。

委員：祭礼行事の継承と伝統工芸産業が併記されている箇所が見受けられるが、御車山修理などの文化財の保存においては、産業と直接結びつくのではなく、伝統的工芸の継承と結びつくため、表現を見直されたい。

事務局：表現を精査し、誤解を招かないようにしたい。

委員：第2期からは古代に遡って歴史的風致を取り組むこととしているが、用語と言葉遣いは正確に捉えていかないといけない。例えば、旧北陸道と記載すると、古代は「ほくろくどう」の官道との違いを明確にしないと行けないし、菅笠関連となると時代的には北国街道と言うことが分かりやすい。古代の歴史まで遡ると北陸道は国府から石堤を通過して、福岡に行く道も対象となる。また家持が通ったと思われる場所も対象とすることも考えられ、どのあたりまでを取り扱うかについて議論が必要である。

事務局：表現については今後精査する。本計画では、歴史的風致が定義付けられており、歴史的建造物と現在まで続いている人々の営みが一体的となって整備をしていく計画である。その観点からどの程度まで対象とできるか今後精査する。

委員：北部地域であれば、家持が歌を詠んだ小矢部川のラインを押さえていくことや万葉歴史館の機能充実の取組みと関連する場所として押さえていくことも重要であると思う。

委員：鉢伏山や雨晴からの眺望が良い場所もエリアに入れてはどうかと思う。

事務局：歴史的風致の設定については、核となる建造物と人の営みがセットで残っていることが要件とされており、自然風景だけでは設定することができない。このため、歴史的建造物等と人々の営みを関連付けて検討し、提示したい。

委員：北の玄関口として伏木・吉久を同じ風致エリアにしているが、両地区において性格が違わないか。吉久は米商のまち、伏木は舟運のまちという認識で歩んできた歴史も異なっているが、なぜ同じ風致エリアとなっているのか。

事務局：第1期計画では、「北の玄関口」としてひとくくりにした経緯があるが、精査する。

委員：本計画の予算に関し、調査事業の予算はどう考えているか。例えば、高岡の鋳物関係では、市街・県外にも関連の資料は多い。これを既存の事業で実施しては十分な調査ができない。本計画に位置付けるならば、しっかりと調査費を計上し、広範囲に調べて資料収集を行うべきと考える。

事務局：博物館や鋳物資料館のほか、関連資料が相当数あることは承知している。これらを調査していくことも有効であるとする。必要であれば予算を十分に確保することも考えていきたい。

以 上